

水産海洋地域研究集会

第2回北海道水産海洋研究集会
—北海道周辺のホッケ資源：急減とその要因・今後の展望—

主催：一般社団法人水産海洋学会
後援：道総研 水産研究本部稚内水産試験場，水産教育・研究機構 北海道区水産研究所
日時：2017年1月19日（木）13:00～16:30
場所：かでの 2.7 710 会議室（札幌市中央区北2条西7丁目）
コンビーナー：三宅博哉，鈴木祐太郎（道総研稚内水試），船本鉄一郎（水産機構北水研）

総合司会：鈴木祐太郎（道総研稚内水試）
挨拶：和田時夫（一般社団法人水産海洋学会長） 13:00～13:10
趣旨説明：鈴木祐太郎（道総研稚内水試） 13:10～13:15

話題：

- 座長：三宅博哉（道総研稚内水試）
1. ホッケを取り巻く漁業実態 13:15～13:40
山口幹人（道総研稚内水試）
 2. 北海道周辺のホッケの資源評価について 13:40～14:05
高嶋孝寛（道総研栽培水試）
 3. 産卵場環境・仔稚魚の生き残りについて 14:05～14:30
鈴木祐太郎（道総研稚内水試）
- 休憩— 14:30～14:40
- 座長：船本鉄一郎（水産機構北水研）
4. 近年のホッケ漁獲動向と海洋環境とのかかわり（仮） 14:40～15:05
森田晶子（水産機構北水研）
 5. ホッケ資源をめぐる漁業対策と地域経済（仮） 15:05～15:30
濱田武士（北海学園大）

総合討論：三宅博哉（道総研稚内水試） 15:30～16:30

開催趣旨：ホッケは北海道周辺の沿岸から沖合にかけて多様な漁業によって漁獲され，その水揚げは2008年には16.5万トン，金額にして100億円（全道）を誇った重要な水産資源である。ホッケの利用形態を見ると，すり身原料として水揚げ港付近における加工業を支える他，一夜干し，糠ホッケ，ちゃんちゃん焼き，さらには水族館で使用される海獣類の餌，最近では高価格を反映して刺身食材としての開発も進められている。本資源は2010年以降急激に減少し，2015年の漁獲量は1.7万トンと最低水準に陥った。本シンポジウムではホッケの資源評価や資源変動要因に関する研究の現状を紹介するとともに，今後の資源動向や持続可能なホッケ漁業のあり方について展望する。